

研究課題名	横隔膜脚収縮能からみた経口内視鏡的筋層切開術後逆流性食道炎の危険因子の検討
研究の意義・目的	食道アカラシアは下部食道括約筋の弛緩不全により嚥下障害などの症状を訴える疾患です。近年は標準治療の一つである内視鏡的筋層切開術（per-oral endoscopic myotomy (POEM)）が行われることが増えてきています。POEM は他の外科手術と比較して低侵襲ですが、POEM 後に胃食道逆流症が起りやすいことが報告されています。胃食道逆流防止機構の一つとして横隔膜脚が関与しており、胃食道逆流症では横隔膜脚の収縮能の低下が逆流の危険因子であることが報告されています。本研究の目的は、POEM の横隔膜脚収縮能への影響や POEM 後逆流性食道炎に横隔膜脚収縮能が関与しているかを明らかにすることです。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2017 年 1 月～2025 年 2 月に大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科で、食道アカラシアを含む食道運動障害に対して内視鏡的筋層切開術（per-oral endoscopic myotomy (POEM)）を受けられ、術後 3 か月のフォローアップ（問診、食道内圧検査、上部消化管内視鏡検査、バリウム造影検査）を終えられた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた POEM 術前と術後 3 か月の下記項目を本研究に使用させていただきます。2025 年 2 月までに POEM1 年後のフォローアップを終えられた方に関しては、POEM1 年後のデータも使用させていただきます。 症状に対する問診内容、年齢、性別、体重、身長、Body Mass index、嗜好歴、過去の治療歴、罹病期間、食道運動障害診断名、併存疾患、食道内圧検査結果、上部消化管内視鏡検査結果、バリウム食道造影結果、POEM 関連因子（手術内容や術後経過、血液検査結果等）
提供する試料・ 情報の取得の方法	診療の過程で得られた診療情報
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学のみで行います。 【研究責任者】沢田 明也
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。

本研究の 利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 消化器内科 担当者氏名：沢田 明也 電話番号：(06) 6645-2316 メールアドレス：a.sawada@omu.ac.jp